

レイ：前回の記憶の実験の話、おもしろかった。

テツ：その前の目撃証言も、前の迷子体験も、後で与えられる情報で、記憶って結構ゆがめられるってことなんだよね。

ユイ：人間の頭はコンピューターみたいに正確じゃないってことだね。

テツ：まあそういうことだけど、心理学ではその辺のことをもっとくわしく研究しているんだ。今日は、その内のひとつの「ソース情報」の話をします。

ユイ：ソース情報？それって、どの料理にはどんなソースが合うかっていう情報のこと？

レイ：それ、お父さん譲りのオヤジギャグ？

テツ：いや、ユイは単なる天然。「ソース情報」の「ソース」っていうのは、「源」という意味。

ユイ：「源」？しずかちゃん？

レイ：ホント。真顔で言ってる。確かに天然だ。

テツ：情報源。どこからその情報を得たか、ってこと。人間は、何か情報を得たとき、その内容は覚えていても、その情報をどこから得たかということは結構忘れやすいんだ。

レイ：なるほど。それ、わかる。よくある。「この話、聞いたことあるけど誰に聞いたんだっけ？本で読んだのかな？でも、とにかく聞いたことある」ってやつね。

テツ：そう、まさにそれ。これも実験が行われてるんだ。

大学生を2つのグループに分けて、両方のグループに「新しい薬の効果」についての情報を与えたんだ。ただし、一方のグループには、その情報は専門の医学雑誌の情報として。もう一方のグループには、大衆雑誌の情報として。その直後に、その情報によって自分の考え方が変わったかどうかを聞いたところ、最初のグループは約24%が考えを変えたのに、後のグループは7%しか考えを変えなかったんだ。

レイ：医学雑誌は信用できるけど、大衆雑誌は信用できないからそこに書いてある内容ではあまり影響を受けないわけね。

テツ：そうだね。でも、4週間後にもう一度、考えが変わったかどうかを調査したら、どちらのグループも、考えを変えた学生は13~14%だったんだ。信用できない雑誌に載っていたことでも、日がたつとどこに載っていたか忘れてしまって、影響を受けてしまうんだね。

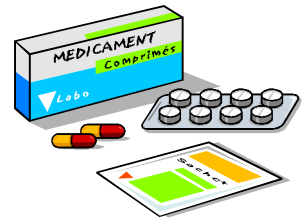
レイ：UFOとか幽霊の話って、あんまり信用できそうもない週刊誌とかによく載ってたりするわよね。だから、読んだときは、「こんなの作り話に決まってるじゃない」って思うけど、しばらくたつと、何で読んだか忘れちゃって、もしかしたら知り合いの体験談だったかななんて思っちゃったりして、その内容を信じちゃうようになったりするってわけね。

ユイ：エ〜、週刊誌って作り話とか書いてあるの？ユイ、全部ホントのことだと思ってた。

レイ：あんた、そんなんでも今までよく生きてこられたわね。週刊誌どころか、新聞だって教科書だってホントのことを書いてるとは限らないのよ。ねえ、テツロー？

テツ：間違ったことはあんまり書かないだろうけど、どういう情報がいっぱい書かれてるとか、どういう情報はあまり書かれてないとかは、新聞や教科書によって違ったりするから、そういうことによって、読む人の考え方が変わったりすることはあるかもね。

ユイ：それは大丈夫。ユイは、新聞や教科書は読まないから！





図の 2 か所の影の部分の面積の比 $S_1 : S_2$ は何対何になりますか。

○の中に数字を入れて、
式を完成させてください。

上の表は、A、B、C、D、E、F、G、Hの8人のテストの点数です。100点満点で、8人の平均は64点です。Fの得点は8人の中の最高点で、他の7人の内の誰かの得点のちょうど2倍です。

CとFの得点を求めてください。

ア、イ、ウの3つの三角形は△ABCと相似(同じ形)で、相似比(大きさの比)は、 $AD:DE:EC=3:4:2$ なので、直角をはさむ2辺は

ア、9 cm、12 cm
イ、12 cm、16 cm
ウ、6 cm、8 cm

面積の合計は、 174 cm^2

- 1 番目 アーロン タミー 花
2 番目 クリス ドーン アクセサリー
3 番目 リオ トレイシー ケーキ
4 番目 テリー ジュリー ハシカチ